

平成25年度後期 授業改善アンケート 質問項目

	no.	設 問	① ←→ ⑤
学 生	1	シラバスで授業内容を確認しましたか	確認しなかった ～ 十分確認した
	2	教室では授業に積極的に取り組みましたか	取り組まなかった ～ 取り組んだ
	3	あなたの出席状況を評価してください	良くない ～ 良好
	4	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか	しなかった ～ 十分した
授 業	内 容	5 授業はシラバスに沿って行われましたか	シラバスと異なる ～ シラバスに沿っていた
		6 授業内容を理解できましたか	理解できなかった ～ 十分理解できた
	教 え 方 等	7 説明が明快でしたか	分かりにくい ～ 明快
		8 話は良く聞き取れましたか	聞き取りにくい ～ 聞き取れた
		9 板書、OHP・PowerPoint等は授業を理解する上で効果的でしたか	改善して欲しい ～ 効果的
		10 配布資料、教材等が効果的でしたか	改善して欲しい ～ 効果的
環 境 ・ 設 備 等	11	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか	良好でない ～ 良好
	12	参考書等が図書館に揃っていますか	不足 ～ 揃っている

1. 概評

すべての項目について全学平均以上の数値であり、総体的に良好な結果を維持している。前期の概評として、「本学科は例年、すべての項目が4.1以上の高数値なのだ、これ以上、数値を上げることは難しい」と記したものの、後期は3項目について、前期より0.1ポイント上昇したことを喜びたい。

しかしながら、学生の出席に対する自己評価は、唯一前期数値を下回った。季節的な問題であるかも知れず、それでも4.4と高数値を維持していることに意を強くして、今後とも学生指導に力を注いでいきたい。

また、学科平均を下回る科目に関しては対策が急がれるが、この中には演習Ⅰ科目も複数含まれている。演習Ⅱ・Ⅲに関しては高い評価の傾向にあることから、学生自身の興味や得意不得意が自覚されるための、一つの過程とも考え得る。但し、学生の質的変化・二極化の傾向も軽視しえず、追って経過を観察することで、原因と対策を見極めたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.2	0	0	0	0	31	90	[学生] 学科平均は、良好な数値を維持している。 no.1は前期よりも0.1ポイント上昇し、昨年度同期の水準に復したが、逆にno.3は前期よりも0.1ポイント下落している。インフルエンザ等の流行もあり、必ずしも学生本人の意志や生活態度に帰すことのできない点ではあるが、ホームルーム等で健康管理の面からも注意を促すことが、打開案の一つとなるかも知れない。
2	4.2	0	0	0	0	19	102	
3	4.4	0	0	0	1	1	119	
4	4.2	0	0	0	1	18	102	
5	4.2	0	0	0	1	21	99	[授業[内容]] 学科平均は、前年度後期・今年度前期と変わらぬ良好な数値を維持している。が、数値を具に比較すると、前期よりも下方回答が減少し、改善傾向にあると言える。但し、no.6のみ、学科平均と全学平均が同等であるという点も事実であり、学生の二極化・質的変化などに留意して、今後とも取り組む必要がある。
6	4.1	0	0	0	6	27	88	
7	4.3	0	0	0	7	15	99	[授業[教え方等]] 学科平均は、良好な数値を維持している。 no.9については、上方回答が増えた前期に続き、0.1ポイント上昇しており、板書や視覚資料などの工夫が学生にも認められていると言える。また、no.8も前期より0.1ポイント上昇しているが、分布の上でも上方回答が増えており、前期を踏まえての改善が図られたと見てよい。
8	4.4	0	0	0	4	13	104	
9	4.2	0	1	0	7	21	91	
10	4.3	0	0	0	2	23	96	
11	4.4	0	0	0	1	10	110	[環境・設備等] no.11 学習環境に対する不満は、寒暖両方において受講人数の多い授業に多く、改善が難しい点でもある。 no.12 参考図書については、前期よりは下方回答が減少している。学習意欲の高さを裏付ける反面と解して、更なる充実と指導を行っていきたい。
12	4.1	0	0	0	4	29	88	

3. 今後の方針

- 本学科は、すべての項目について全学平均以上の数値であり、総体的に良好な結果を維持している。が、この点に満足せず、弛まず指導・授業内容双方にわたり工夫・改善を図ってゆく。
- 各授業のレベル設定が適切であるかの検証や、教授法・教材の工夫も含め、教員間の情報の共有を図る。

1. 概評

今学期の評価は、全ての項目において学科平均が全体平均より上回っている結果となっている。今回は、ここ数年の中でも最も高評価を得ることができており、大変満足できる結果である。

【学生】

ここ数回、他の項目と比較すると、この項目の数値の伸びが良くなかったが、今学期は大変良い結果となった。確実にポイントがあつてきている様子が見られる。

【授業【内容】】

2 項目とも、全体平均より上回っている。ここ数回、概ね良好の評価を得ることができており、学生のニーズや期待値とあつた授業を展開できているのかと考えられる。

【授業【教え方等】】

4 項目とも、全て 4.3 ポイントという大変良い評価を得ている。今後も、更に効果的な授業運営を目指していきたい。

【環境・整備等】

2 項目とも、全体平均を上回っており、4 ポイントを超えている。以前はポイントが低かった「図書館利用」も、ポイントの伸びが見られる。継続して改善に努めてきた成果と考えられる。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	4.1	0	0	1	4	36	91	【学生】 ・No.1 は、前年度と比較すると 0.1 ポイント上昇している。但し、4.1 ポイントと、このセクションの中では比較的低い結果となっている。学生ヘシラバスの確認を促す指導を、更に進めて行きたい。 ・No.2 は、前年度と比較すると 0.2 ポイント上昇している。学生の授業への積極性が現れた結果と言える。 ・No.3 と No.4 は、両方とも前年度と比較すると、0.1 ポイント上昇し、比較的高いポイントを得ている。今後も学生の自主的な学習を促す授業運営に取り組んでいきたい。
2	4.3	0	0	0	3	17	112	
3	4.4	0	0	0	0	11	121	
4	4.3	0	0	1	1	17	113	
5	4.3	0	0	2	4	10	116	【授業【内容】】 ・No.5 は前年度と同じポイントを得ており、No.6 は前年度と比較すると 0.1 ポイント上昇している。両方とも、4.3 ポイントと言う良い結果が得られている。
6	4.3	0	0	2	4	14	112	
7	4.3	0	2	4	3	15	108	【授業【教え方等】】 ・これら 4 つの項目は、前年度の結果と比べると、No.7と No.8 が同じポイントで、No.9 と No.10 が 0.1 ポイント伸びている。そして、全て 4.3 ポイントと言う、大変満足できる結果となっている。 ・但し、これら 4 つの設問に対する回答にも、3 ポイント以下の回答も見られるので、学生の回答をより詳細に分析し、分散回答を減らすように、大学・学科の FD 活動等を通して向上させていきたい。
8	4.3	0	0	4	2	11	115	
9	4.3	0	0	5	4	20	103	
10	4.3	0	0	5	3	11	112	
11	4.4	0	0	0	4	15	113	【環境・設備等】 ・No.11 と No.12 は、前年度と比べると、どちらも同じポイントとなっている。但し、平均 4.1 ポイントは越えており、概ね良好な結果と言える。 ・環境・整備に関しては、学生の学習に影響が出る要因でもあるので、できるだけこの点のポイントを上げられるように、学科教員の協力も得て、更に取り組んでいきたい。
12	4.1	0	0	0	7	32	93	

3. 今後の方針

・全体的に見ると、前年度に比べるとポイントが上がった項目が 12 項目中 7 項目 (No.1,2,3,4,6,9,10)、残りの 5 項目 (No.5,7,8,11,12) が前年度と同ポイントであった。前年度の後期が、それ以前と比べると大変良い結果となっていたことを考慮すると、学生からの評価が年々上がって来ていると判断できる。また、今年度は、すべての項目が 4 ポイントを超えており、更には、全ての項目において学科平均が全体平均を上回っている結果を考慮すると、今学期はこれまで以上に良い結果であったと言える。今回の結果は、大変満足できるものであった。

・但し、それでも、まだ改善が必要な項目も見られる。比較的評価が低い項目 1【シラバスでの授業内容確認】と項目 12【図書館の参考書】の改善に継続して取り組み、全体的な評価をますます向上させていきたい。

1. 概評

後期開設科目のうち、85科目でアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目が2（No.1、No.3）、やや下回る項目が3（No.6、No.9、No.12）、全体平均と同じ項目が残り7項目であった。前年度に比べて全体平均を下回る項目が減ったことは、各授業での改善が行われていることを伺わせる。特に、従来からの課題であった学生の積極的な取り組みや授業外での学習の項目において全体平均を上回ることが出来たことは、歴史文化基礎を初めとした学科の取組がようやく根付いたと言える。

その一方で、教室環境や参考図書などの施設面は毎回全体平均を下回るため、改善に努めてはいるものの、問題が解決されていないことが明らかとなった。環境については受講者数の多い科目、講義を実習室で行っている科目で低いポイントになる傾向がある。前者については、数科目で他学科の履修可能範囲を学部限定するなどの措置を行った。（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	2	28	49	[学生] 前年度全体平均を下回っていたNo.2（積極的な取り組み）、No.4（授業外での学習）において全体平均を上回ることが出来た。 1年生必修歴史文化基礎は自主的な研究をする指導に力を入れているかもくであり、開講から4年が経過したため、在学年次すべてが受講者となったことも今回の結果に繋がったものと思われる。来年度に向けて歴史文化基礎のテキストの改訂を行っている。今後も指導を継続して行く。 No.1（シラバスの事前確認）は全体平均を維持しており、現在の履修登録方法が定着してきたと言える。
2	4.1	0	0	0	0	27	52	
3	4.4	0	0	0	0	2	77	
4	4.1	0	0	0	3	24	52	
5	4.1	0	0	0	2	22	55	[授業[内容]] 前年度に比べ、シラバスに沿った授業運営ではポイントを上げたものの、内容の理解についてはポイントを下げ、全体平均よりも下回る結果となった。
6	4.0	0	0	0	7	20	52	
7	4.1	0	0	1	5	16	57	[授業[教え方等]] 前年度すべての項目において全体平均と同じであったが、今年度は、No.9（板書、パワポの効果的利用）において全体平均を下回る結果となった。また、No.7・8においてポイントが低い授業があり、担当者に改善を促すこととした。ただし、前期ポイントが低いため改善を促した授業ではポイントを上げ、改善が行われたことが伺えた。
8	4.2	0	1	0	6	16	56	
9	4.0	0	0	1	5	24	49	
10	4.1	0	0	1	2	20	56	
11	4.2	0	0	0	4	18	57	[環境・設備等] 毎回全体平均を下回る項目であったが、環境面では全体平均と同じとなった。今後も可能な限り授業形態・規模にあった教室の確保に努めたい。 図書の充実に向けては、引き続き学生からの購入希望を出すよう指導したい。
12	3.8	0	0	3	8	39	29	

3. 今後の方針

本学科の学生は、真面目であるが積極的な活動が少ない(目立たない)と言われてきた。授業評価の項目でも授業外の学習や積極的な取り組みにおいてポイントが低く、学科の課題として改善に努めてきた。今回のアンケートでは課題としていた上記項目について全体平均を上回る結果が出たことで、学科の取組が効果を上げたものと評価している。今後も指導を継続し、学生の自主性・積極性を引き出すよう取り組んでいきたい。

- ①1 年生必修授業「歴史文化基礎」ではそれぞれがテーマを選び、自分で調査研究し、授業で報告するスタイルを基本としている。今後もこのスタイルを徹底し、自主的・主体的な学習姿勢を養ってゆく。そのために、来年度に向け授業内容について検討を行い、テキストを改訂した。
- ②必修授業での課題の徹底、ゼミでの夏期研修旅行、海外研修プログラムの参加、ボストン校をはじめとした協定校への留学を呼びかける。
- ③シラバスに沿った授業運営を継続してもらうよう教員に働きかける。
- ④授業公開の方法を検討し、互いに切磋琢磨してよりよい授業を目指す。
- ⑤参考図書の充実に向け、学科内でも調整を行い、教員・学生共に図書館へ図書購入希望を申請して行く。

1. 概評

後期開設科目のうち、136 科目でアンケートをとった。全体平均をしたまわるのは No.1 のみである。これは 5 項目でマイナスであった前期とくらべ大きな改善である。今後この趨勢を維持するようつとめる。そのほかは No.7, No.8, No.10 で全体平均をうわまわる。TOEIC のスコアにもこの傾向はあらわれている。今後は学生の能動的な学習をうながし、No.1 から 4 の数値がたくなるようつとめたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	3	25	49	53	[学生] No.1 のみ全体平均を 0.1 ポイント下まわった。他はすべて学科平均と全体平均がひとしい。前期比では No.3 のみ-0.1 ポイント。他はすべておなじ。学生生活になれて、前期にくらべ、欠席しがちな学生がいるようである。注意をうながしたい。
2	4.1	0	0	0	4	38	88	
3	4.3	0	0	0	1	19	110	
4	4.1	0	0	1	3	35	91	
5	4.1	0	1	0	5	39	85	[授業[内容]] 全体平均と前期とも比較して変化なし。とはいえ、学生の理解度をとう設問 (No.6) で、平均を 1.0 ポイントも下まわるのが 2 科目あったことが気になる。注意をうながしたい。
6	4.1	0	0	2	4	31	93	
7	4.2	0	0	1	6	20	103	[授業[教え方等]] No.7, No.8, No.10 が全体平均をそれぞれ 0.1 ポイントうわまわる。さらに、No.8, No.10 は前期比でもそれぞれ 0.1 ポイントうわまわる。教員の教授法が改善されていることが数字にあらわれていて、うれしい。学科平均を下まわる科目がそれぞれひとケタなもの、よろこばしい。今後ともこの趨勢を維持したい。
8	4.3	0	0	0	5	14	111	
9	4.1	0	0	0	8	29	93	
10	4.2	0	0	1	7	24	98	
11	4.2	0	0	0	3	27	100	[環境・設備等] 全体平均、前期比とも変化なし。次期は参考図書の満足度を 4 点台にできるよう、参考図書の充実をはかりたい。
12	3.9	0	0	1	9	52	68	

3. 今後の方針

- ① 必修のボストン留学が今年度から後期に移行するにともない、外国語(ドイツ語、フランス語、スペイン語)の学習をより効果的にすべく、ボストン校との連絡をより密にする。
- ② 上海交通大学とのダブル・ディグリーに参加する学生がふえるよう、今年度後期に急遽、中国語の集中コースをもうけた。上海での三週間研修とあわせて、漢語水平考試(HSK)4 級合格者をふやす。
- ③ アルカラ大学(スペイン)との協定が視野に入り、今後受講者の増加が見こまれる。いままでスペイン留学者はごく少数にとどまったため、留学を見すえた授業をめざす。
- ④ ことしからはじまる韓国の協定校留学は 2 校(国民大学、西江大学)とも授業履修のみを課す。これに対応して、韓国の語学堂方式の授業をとり入れる。

1. 概評

学科設立年次のため、回答者は1年生のみである。評価は、大人数講義である必修科目が多く開講されていることを背景として、総じて大学全体平均よりもやや低めとなっている。1年次においては、学科が提供する専門教育科目の全てが必修科目であり、学生の履修計画に占める学科必修科目の割合は概ね85%以上、スキル系科目と経済・経営系科目のコマ数比率は5:2である。前期同様、授業への参加状況は良好であるが、英語やコンピュータ、基礎ゼミ等のスキル系科目は履修者数30名程度（演習型）、経済・経営系科目は履修者数80名程度（講義型）と2分化しており、授業内容の理解、話の聞き取りやすさ、教室環境の快適さを中心に、評価は総じて前者が高くなっている。後者においては、前期の評価結果を受け、学科の方針としてプレゼンテーションや課題演習など学生参加型の講義運営を導入する取組みを進め、前期と比較して出席状況を除く全ての項目で改善がみられた。今後も、学生による事前学習と発表のサイクル・頻度を工夫するなどして理解度の向上を図る他、改善可能な事柄については、年度の途中であっても即応して対処できるよう、教員間の情報交流を進めたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.4	0	1	3	20	16	2	[学生] 出席状況、授業外の学習については概ね良好である。必修科目として当該講義を履修する意味を理解し、授業への積極的な参加に結び付ける工夫が必要であり、特にシラバスの閲覧など、学生の学習計画に資する項目については、重点的に改善を図りたい。学期始めのガイダンスだけでなく、各講義の場を通じて、シラバスの意義を繰り返し周知し、講義の目的の共有や、学生が自ら学ぶ学習姿勢の醸成につなげたい。
2	4.0	0	0	0	1	17	24	
3	4.2	0	0	0	0	6	36	
4	4.0	0	0	0	1	18	23	
5	3.8	0	0	0	7	23	12	[授業[内容]] 1年次の専門教育科目は全て必修科目であることもあり、学生が随時、講義の目的と現在の学習内容との対応を確認できるよう工夫することが学びリズムをつくる上で重要である。シラバスの閲覧を習慣化する取組みとあわせて、受講動機を意識づけを図っていきたい。
6	3.9	0	0	0	4	18	20	
7	4.0	0	0	1	3	16	22	[授業[教え方等]] アンケート内の自由記述においても、学生は授業内容の明瞭さ、わかりやすさを求めていることがうかがえる。パワーポイントなど資料の利用法、対話型や発表型講義に対しての学生側の期待は高く、一定の評価を得ていると考える。 一方、大人数講義においても、プレゼンテーションや課題演習など、対話型の講義運営については、後期から改善に取り組んだ講義も多く、改善が認められた。 また、今後の課題として、アクティブな講義運営を継続推進すると同時に、経営・経済系科目において理解度を深めるために、各学問領域の相互関係を分かり易く伝える努力が必要であり、一部共通のケースやトピックを用いて講義を行うなど工夫を試みたい。
8	4.0	0	0	1	1	16	24	
9	3.9	0	0	1	4	17	20	
10	3.9	0	0	1	2	20	19	
11	3.9	0	0	0	6	16	20	[環境・設備等] 講義型科目では、教室定員上限の環境下で、通路が狭く教員が学生と対話するための移動が困難であったことなど、教室環境や教室でのパフォーマンスに関わる具体的な問題が発生した。新棟の稼働に合わせて、学習空間の快適さが改善されていくことが期待される。
12	3.7	0	0	0	13	22	7	

3. 今後の方針

1. 経済・経営系科目、英語やコンピュータなどのスキル系科目のそれぞれに教員間の対話を随時行い、目標と対応事項を定め、効果的な教授法の開発と共有を図る。
2. 経済・経営系科目においては、1 年生に対して、2 年次のボストンで英語による経済・経営科目の講義が実施されることを念頭に、学生の事前学習を前提としたディスカッションやプレゼンテーション、課題演習を継続実施し、講義時間内における学生個人ないしグループとの対話を通じた授業の理解度向上に取り組む。また、日本語と英語での専門用語の理解を促していく。
3. スキル系科目(英語)においては、TOEIC スコアの向上を意識した講義構成を図ると同時に、補習を通じたフォローアップを充実させていく。
4. FD 講演会、FD サロンへの参加を通じた新たな教授法の習得に努める。また、ボストン校教員との情報交流を進め、ボストンプログラムとの連動の仕組みづくりに努める。
5. 学生の自主性を涵養できるよう、課題内容、提出物管理、フィードバックの工夫に努める。

1. 概評

いずれの設問においても、大学全体の平均と比較するとほぼ同じ評価点であり、12問中10問が4点以上であった。本学科の前年度同学期の評価点と比較すると評価が下がった項目はなく、12問中4問は得点が向上していた。学生の学習態度、教員の授業運営双方に改善を認めることができた。引き続き、学生への働きかけを意識しつつ、授業の改善に取り組んでいきたい。
 （上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	1	16	25	[学生] すべての設問が4点以上であった。特にNo.2(授業への積極度)、No.4(授業外での学習)は、昨年度の評価点を上回っており、学生が積極的な態度で授業に参加し、意欲的に学習していたことがうかがえる。今後も学生の主体的な学びを促していくように各教員で働きかけていきたい。
2	4.1	0	0	0	1	12	29	
3	4.4	0	0	0	0	0	42	
4	4.1	0	0	0	2	13	27	
5	4.1	0	0	0	0	9	33	[授業[内容]] No.5は、昨年度の評価点を上回った。今後もシラバスの内容について学生と共有した上で、学生の理解を促す授業運営を心掛けていきたい。
6	3.9	0	0	1	1	21	19	
7	4.0	0	0	1	2	14	25	[授業[教え方等]] すべての設問が4点以上であった。板書、視聴覚教材、配布資料等が学生の授業理解に有効に活用されていることがうかがえた。心理学科の各教員が授業公開に積極的に参加し、日常の中でも教員相互で授業運営に関する意見交換、情報共有を行いながら、各教員が創意工夫を続けていることが評価に反映されていると考えられる。今後も引き続き授業方法の改善と向上を目指して努力していきたい。
8	4.1	0	0	0	4	12	26	
9	4.0	0	0	0	3	18	21	
10	4.1	0	0	0	2	11	29	
11	4.0	0	0	0	3	15	24	[環境・設備等] No.12(図書館の蔵書)の評価が昨年度よりも向上した。今後も教員が参考書籍の購入依頼を積極的に図るとともに、授業内でも学生に広報することで、図書館の活用を促していきたい。
12	3.9	0	0	0	3	24	15	

3. 今後の方針

- 12 問中、10 問が 4 点以上であり、学生の授業に向かう姿勢、教員の授業運営双方ともに良好といえる。授業内容や教え方などに関しては、今後も教員間の情報交換を密にし、授業の質の一層の向上を目指す。
- 図書館の蔵書に関しては、各教員が担当授業科目における参考書籍の購入依頼を積極的に行うとともに引き続き、学生への指導、広報を行い、学生が図書館をより活用するように促していきたい。

1. 概評

本学科は社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格、保育士資格が取得できる学科であり、受講動機やキャリアデザインが明確な学生が多い。そのことが、シラバスの事前確認、出席状況の高評価につながっているものと思われる。授業への積極的な取り組み、授業外学習、説明の明快性、話の聞き取りやすさ、配布資料・教材の適切性、学習環境状況においても、前年度に比べ0.1～0.3ポイントほど高く評価されている。教員による授業内でのプレゼンテーションや板書、およびパワーポイントの有効な活用が、学生の授業理解の向上につながったと考えられる。参考図書の整備状況については、全体平均と同じ点数であるが、各項目に比べると点数が低い結果となっている。教員・学生が積極的に図書リクエストするなど、学科全体で図書の充実が図れるよう取り組んでいきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	4	37	41	[学生] 問1(シラバスの事前確認)が前年度に比べて0.3ポイント上がり、全体平均を上回る結果となる。教員による事前のアナウンスや、資格指定科目が多いことから、学生が積極的に事前の学習準備に取り組む姿勢がうかがえた。全体的には改善できたが、科目によるばらつきがあり、教員全体で取組めるよう科会等で促していきたい。問2(授業に対する積極性)、問3(出席状況)、問4(授業外の学習状況)など、学生の学習に臨む姿勢は良好である。また国家試験対策講座ではeラーニングによる授業外学習ができるようシステム化しており、今後さらに学生が活用できるよう促していきたい。
2	4.1	0	0	0	1	20	61	
3	4.4	0	0	0	0	7	75	
4	4.1	0	0	0	1	25	56	
5	4.1	0	0	1	2	25	54	[授業[内容]] 問5(シラバスに沿って授業)は、全体平均と同じであるが、昨年度と比べると0.2ポイント高い評価となっている。科目によっては平均を下回る評価もある。問6(授業内容の理解)については、全体平均より、0.1ポイント低い評価であり、授業担当教員が授業改善アンケート等の結果を踏まえ、改善策が図れるよう方策を考えていきたい。
6	4.0	0	0	2	2	32	46	
7	4.1	0	1	1	2	26	52	[授業[教え方等]] 問7(説明の明快性)は昨年度と同じ評価であるが、他の問8(聞き取りやすさ)、問9(板書・パワーポイントなど効果的な活用)、問10(配布資料)については、すべて昨年度より0.1ポイント高い評価となっている。問9に関しては科目によって差があり、音楽の実技や、国家試験対策等の試験実施を中心とした授業等における評価方法を今後検討していく必要がある。具体的には、授業担当教員がアンケート実施前に、授業形態に対応する項目を選択し、学生が記入できるようにする等、正確な評価につながる工夫を図る。
8	4.2	0	1	1	0	25	55	
9	4.0	0	1	0	7	33	40	
10	4.1	0	0	1	3	24	54	
11	4.2	0	0	0	1	18	63	[環境・設備等] 問11(教室環境による評価)は昨年度同様であるが、学生に概ね良好な環境を提供できたと考えられる。問12(図書館の資料の整備)は、昨年度より0.1ポイント高い評価となっているが、各項目に比べると低いため、今後も図書の充実を図り、その活用について学科内で協議していきたい。具体的には、科会や資格・コース会議等で、図書、資料に関するリクエストができる場を設けていきたい。
12	3.9	0	0	0	6	42	34	

3. 今後の方針

基本的には前年度の方針を踏襲する。

1. UPSHOWA などのシステムの充実と活用

活用を促すうえで学生・教員間の相互理解の促進に力をいれていく。

2. 履修登録前の教務ガイダンスの一層の工夫

資格関連の必修・選択必修、コース必修・選択必修科目等、学生がそれぞれの科目内容を理解し、履修できるようガイダンスを行う。

3. 常勤教員間の連携強化

資格・コース内の担当授業を、学科教員間で公開・参加できるようにし、福祉社会学科における教育理念の共有化を図り、学生への授業内容に反映できるよう努めていく。

1. 概評

アンケートのどの項目も、4.0 以上となっており、学生からは概ね良好な評価を受けていることが伺われる。
意識的にアクティブ・ラーニングを実践している科目のアンケートは、自由回答欄への記入も多い。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	4.0	0	0	1	4	51	76	[学生] シラバスの事前確認を含めて、学生による授業への取り組みは確実に高い値を示すようになっている。 今年度は特に、授業外での課題への取り組みで、学生は自信を高く評価している。 授業への出席については、もとより高い数値が維持されている。
2	4.1	0	0	0	2	29	101	
3	4.4	0	0	0	1	7	124	
4	4.1	0	0	1	5	33	93	
5	4.1	0	0	0	2	26	104	[授業[内容]] 漸次シラバス作成が充実するにつれて、シラバスに沿った授業運営に対する評価が上がっており、それに見合う授業内容理解の数値が出ていることは確認されてよい。
6	4.1	0	0	1	5	31	95	
7	4.2	0	0	0	7	28	97	[授業[教え方等]] ここ数年、問 09 板書、OHP、PP の利用などの評価が高い数値で安定している。自由回答を概観しても見ても、「板書が汚い、読めない」という記述は減っている。教員側が、PP を活用したり、配布資料を工夫したり、留意している成果が表れていると思われる。
8	4.3	0	0	0	3	23	106	
9	4.1	0	0	0	7	37	85	
10	4.2	0	0	0	4	26	102	
11	4.3	0	0	0	4	22	106	[環境・設備等] 授業環境、図書館蔵書についても高い数値を得た。 図書館蔵書でも「4.0」の数値を得た。
12	4.0	0	0	0	5	49	78	

3. 今後の方針

アクティブ・ラーニングを意識して実践している科目のアンケートには、「きつかった」「良い経験をした」など、賛否を含めて自由回答への記述が多く、充実した双方向の関係が表れている。H25から施行している新カリキュラムで設置した新科目も、アクティブ・ラーニングを前提としているものが多く、学科としては引き続き、アクティブ・ラーニングの実践をより積極的に行っていく。

新カリキュラムについては、今後も試行錯誤が続くため、授業公開と参観後の教員間議論の場を継続していく。

また、メディア系の科目を先頭に、80 号館西棟のパイロット教室を積極的に活用していく。

個別のアンケート結果には表れてこない事項であるが、5 クラスに分かれて行う一年次のゼミナール授業、いわゆる基礎ゼミに当たる科目)で、担当教員による評価に差がある。また、学生からの自由回答でも、課外学習の負荷の違いなどへの疑問が提起されている。

担当教員間での議論や諸連絡をより密にし、レベルを維持しながら公平な授業運営を行えるように配慮していきたい。

図書館蔵書については、図書館と連携しより一層の充実を図りたい。

1. 概評

常勤、非常勤も、全般に4点台を超え、高水準を維持している。

幼稚園教諭免許、小学校教諭免許、保育士資格を取得する学科の特性から、特に、専門科目への意識が学生にも、教員にも高ことが数字に表れている。

特に、極端に低いポイントがない

授業内容の改善は効果をあげているものとみられる。

なお、要望の多い、参考図書については、今後も改善につとめていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.1	0	0	0	3	31	51	[学生] 「出席状況」については、教員も学生も日常的に意識を高く持っている結果が数字に表れている。 やはり、「シラバスの確認」が、例年通り課題とされる。 「教室での積極性」については、ほぼ、すべての授業において高水準を示している。今後も学生の意識を保てるようにしたい。 「授業外の自主的な学習」については、今回も高い水準を示した。 授業外の課題については、教員によって差があることが明らかである。
2	4.3	0	0	0	1	14	70	
3	4.5	0	0	0	0	1	84	
4	4.2	0	0	0	3	13	69	
5	4.2	0	0	1	5	18	61	[授業[内容]] シラバスと授業内容の関連については例年通り、高水準を維持している。今後も努力したい。
6	4.2	0	0	3	3	16	63	
7	4.1	0	1	2	4	18	60	[授業[教え方等]] 「説明の明快さ」に関しては、教員個々に差がある。特に、非常勤講師に関して、要望が多かった。 今後の学科の課題にしたい。 まうしろ、専門外の科目に関しては、「難しい」という意識が強いようである。
8	4.2	0	1	1	4	19	60	
9	4.1	0	2	1	4	23	55	
10	4.1	0	1	2	5	14	63	
11	4.2	0	0	1	4	20	60	[環境・設備等] 「参考図書を充実させてほしい」という要望があった。 検討を重ねたい。
12	4.1	0	0	1	4	28	52	

3. 今後の方針

授業公開やディスカッションを通して、授業改善につとめたい。

1. 概評

昨年後期と比較すると、問い 2, 9, 10 が -0.1 ポイントで、あとは同点であった。平成 22 年からの傾向より概ね現状を維持していると考えられる。しかしながら、大学全体と比較すると、やや下回っており、問 7, 8 についてはさらに教員同士で切磋琢磨して教授法をスキルアップしていきたい。

本学科で一番低いスコアは今回も問い 12（参考資料の整備）であった。教員からの図書の推薦を進めるとともに、各授業での積極的な図書館利用アドバイスを行っていきたい。

本学科はデザイン系の科目から哲学系・自然科学系と幅広く学び、さらに実験・実習系の科目が必須となっている。これらの科目間の評価差は大きい、評価の高い科目の授業運営などの工夫なども参考にしていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	0	0	1	10	75	43	[学生] 平成 22 年よりスコアは徐々に上がり、すでに上げ止まった感がある。 問い 1（シラバスの確認）に関しては、日ごろから授業の中でシラバスに触れるなどしていきたい。 問い 3（出席状況）について、今後も積極的な出席を促したい。 問い 4（授業外での学習）は、宿題も含まれることになって以来、4 点台をキープしているが、さらなる自発的な学習を促したい。
2	4.0	0	0	1	5	49	74	
3	4.1	0	0	1	3	34	91	
4	4.0	0	0	0	9	43	77	
5	4.0	0	0	1	2	56	70	[授業[内容]] 授業内容に関する 2 つの設問に関しては、問い 5, 6 ともに、全体より少し低いスコアであったが、平成 22 年からみるとスコアは上昇しており、落ち着いている。
6	3.9	0	0	2	10	47	70	
7	4.0	0	0	1	10	43	75	[授業[教え方等]] スコアが 3 に満たなかった科目が数科目あり、自然科学系、哲学系、実習系が含まれており、学科の守備範囲が広いことも影響があらう。 問い 6 と問い 7 は特に相関が高く、授業内容の理解度が低いことが、他のスコアにも影響を与えていることが読みとれる。その中で、教員が話し方や板書、資料などで工夫しているのが現状である。 視聴覚設備や UPSHOWA の有効利用など、授業運営にさらに工夫を加えていきたい。
8	4.1	0	0	1	10	29	89	
9	3.9	0	0	2	15	43	69	
10	3.9	0	0	1	12	50	66	
11	4.1	0	0	1	8	38	82	[環境・設備等] 学習環境に関して、教室などが狭いと言った声が上がっても、十分な広さの教室に変更できない現状がある。 図書館の整備とその利用に関しては、今後とも 学生に対するアドバイスを行っていきたい。
12	3.7	0	0	1	27	78	23	

3. 今後の方針

学科の平均を平成 22 年度から見ていくと、少しずつ評価が上がっているか、あるいは現状維持であった。0.1 ポイントの上下に一喜一憂するのではなく、トータルとして学生がしっかりと力をつけられるよう、教員側もスキルを磨き、学生の自覚も促していきたい。

問い 3（学生の出席状況）、問い 5（シラバスに沿って授業が行われたか）についてのスコアが 大学全体よりも低いので、学生への声掛けや、授業内でのシラバスの確認・有効利用を図っていききたい。

問い 12（図書館の利用、関連図書の充実について）は、今後とも参考図書の整備を続け、引き続き各授業での図書館利用アドバイスをおこなっていききたい。また、各教員による図書の推薦も積極的に行いたい。

学生の理解度が上がりにくい科目群の一部については、さらに少人数化をはかりたい。（前期は予定以上の新入生が来たため、クラス数を増やした効果が出なかった。）今後も可能である限りこの方針で、教員の配置を行っていききたい。

1. 概評

ほぼ全ての項目で、点数は低下しているが、得点そのものは依然として高く、問題として取り上げるほどのことではない。3点以下の項目はないため、偶然の出来事かもしれない。授業内容と教え方の得点がわずかとはいえ下がっているが、これは授業への取り組みおよび理解しようとする姿勢がむしろ高まっている事を表していると考えられる。なぜなら、授業の出席率は、例年の通り、極めて高く、授業への関心及び期待は依然高いからである。

学習環境は良好と評価されているが、参考図書等については、授業外での学習を促すためにも、一層の充実が望まれている。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.7	0	0	0	10	39	7	[学生] 昨年度の後期の評価と比較すると、すべての項目の平均点が低下しているそれは、評価点4点以上のものの人数が減り 3.5 以上のものの人数が増えたためである。とはいえ、点数そのものは依然高く、教育の質低下のリスクにはならない。 管理栄養学科開設科目は、資格取得のための必修科目が多く、管理栄養士国家試験合格率と直結している。そのため出席率は高く、授業外での学習も充分行われており、評価すべきところである。教員の支援のみならず、学生の授業に対する意識をさらに高め、授業内外での十分な学習ができるように教員に一層の支援を要請していきたい。
2	4.1	0	0	0	0	15	41	
3	4.6	0	0	0	0	1	55	
4	4.1	0	0	0	2	13	41	
5	3.9	0	0	0	0	29	27	[授業[内容]] これらの平均点はいずれも、昨年度と比べて0.2下がっている。低下し続けた場合は問題になるが、一過性の低下である可能性が高い。この低下の原因は不明だが、シラバスの確認が充分でないために授業の理解度が低下した可能性がある。シラバスの確認及び授業の事前準備を充分に行うよう指導を強化してゆく。
6	3.9	0	0	0	5	23	28	
7	3.9	0	0	2	4	23	27	[授業[教え方等]] 点数は昨年度と比較して、ほぼ横ばいである。教員による一層の努力が、もちろん必要であるが、授業内容および教え方が安定し、質の高い教育が行われていることを示している。 教え方の評価はまた、受講者数と教室の広さ、設備などの状況によっても変わってくる。授業内容により興味を持たせ、理解を深めさせるような教え方とともに一層の設備面での充実を図ってゆく必要がある。
8	4.0	0	0	3	4	18	31	
9	4.0	0	0	1	6	16	33	
10	4.0	0	0	0	5	19	32	
11	4.1	0	0	0	0	19	37	[環境・設備等] 点数は昨年度と比較して、ほぼ横ばいである。設備備品は徐々に充実してきているが、充分であると感じていない学生がまだ多い現状である。厚生労働省による踏査調査では設備が古いことが指摘され、設備の更新・最新鋭化は、取り組むべき最重要課題となっている。校舎の老朽化は早急な対応は困難であるが、実験・実習室および給食実習室の改善等は急ぐべき課題である。関係部署に働きかけをしていきたい。図書館には専門書が整っているが、専門領域によっては十分ではない場合もある。より新しい情報としての書籍や雑誌が入るよう、教員からも希望を出していただくように要請していきたい。
12	3.8	0	0	0	6	34	16	

3. 今後の方針

本学科は管理栄養士養成を目指しており、資格取得に関わるカリキュラムの一層の充実を図ってゆく。

ほとんどの学生は管理栄養士国家試験合格を目指しており、学習目的は明確で学習意欲は極めて高い。これら学生の要求を満足すべく、教育レベルの一層の向上を目指した取り組みを、今後も続けてゆく必要がある。

管理栄養士は食べ物を中心として、心の問題から分子レベルのメカニズム解析に至る極めて幅の広い知識と技能を修得していなければならない。化学や生物学はこれらの基礎となる領域であり、これら科目の学力低下は避けなければならない重要な課題である。今後も入学前教育として化学と生物学を継続し、基礎学力向上を目指した取り組みを行う。

管理栄養士の主な活躍の場である病院ではチーム医療が行われており、医学英語のスキルが必要とされることが多い。そこで管理栄養学科では、専門科目としての英語を開講し、管理栄養士として要求される専門英語の教育を始めることとした。

1. 概評

1～4年生定員一杯の状態で行うようになって丸2年がたった。

全体としてみると、ほとんどの科目が資格必須または領域必須になっている為、学生による科目選択の余地は、それほど大きくはない。これに関しては、これまでと同様に、授業評価に反映されたものと考えられる。

【学生】シラバス確認は、前年度に比べてほとんど変化がないといって差し支えないと考えられるが、未だ十分とは言えない。これは多くの授業が資格、領域必須であるため、選択の余地がそれほど大きくないことに起因すると考えられる。そのほかの項目についても顕著な変化はないように読み取れる。

【授業】全体的に平均的な評価であったが、昨年度から、一部の基礎科目で到達度別のクラス分け授業を始めたことにより改善傾向は見られるが、全体に対する割合は低いので、学科平均の数値には大きな影響を及ぼすことはなかった。

【環境設備等】教室などの額祝環境の評価は平均的であるが、参考書についての評価は依然として、高いとは言えない状態であったため、一層の充実が望まれる。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	0	8	29	18	【学生】 シラバス確認についての評価に変化がないが、まだ高いとは言えないレベルである。これはほとんど授業が資格または領域必須であり、クラス分けした時間割によって履修を行っている為、確認の必要性を認識しにくい為と考えられる。授業の出席についての評価は引き続き高く、栄養士養成施設に学ぶ者としての自覚のあらわれ並びに、各教員の指導のたまものと考えられる。 実験実習科目での評価が高く、講義科目での評価が低い傾向にあるのは例年通りであるが、継続的に授業内でのレポート作成時における関連検索などに関する思考や手段についての指導も継続して充実させる必要がある。
2	4.1	0	0	0	2	14	39	
3	4.5	0	0	0	0	0	55	
4	4.1	0	0	0	0	23	32	
5	4.0	0	0	0	2	21	32	【授業〔内容〕】 全体的に平均的な評価であった。科目選択の余地が少ない状況であるが、本学科の目的ははっきりしている為授業への取り組みの姿勢、意識が保持されていると考えられる。今後はさらに授業への集中、予習復習の取り組みにも力を入れるよう、機会あるごとに指導をしていきたい。
6	4.0	0	0	0	6	19	30	
7	4.0	0	0	2	3	18	32	【授業〔教え方等〕】 全体的に平均的な評価であった。授業内容の評価について、基礎科目で低評価になる傾向があったが、この点を改善すべく来年度からカリキュラムの改訂を基礎科目に重点をおいて実施するのでその効果について観察し、適宜改善をしていきたい。
8	4.1	0	0	2	5	13	35	
9	4.0	0	0	2	3	20	30	
10	4.0	0	0	0	4	16	35	
11	4.1	0	0	0	1	16	38	【環境・設備等】 教室設備についての評価は平均的であった。一部の授業では低い評価が認められるが、学生数の多い科目では十分ではない環境で実施せざるを得ない状況があったと考えられる。今後時間割等を工夫することで改善を計りたい。参考資料については依然十分とは言えない状況であるので、継続的な充実を行う必要がある。
12	3.9	0	0	0	4	31	20	

3. 今後の方針

本学科は、資格関連科目が大部分を占め、クラスごとに履修が同じ科目が多い。また科目名から内容がほぼイメージ可能等の理由により、学生はシラバスを十分確認することなしに、授業に参加する傾向が強いと考えられる。授業に対する取り組みや出席状況は、概して良好であり評価は高い。今後資格関連科目、選択科目ともに、授業への能動的かつ積極的な参加と学習意欲の更なる向上を図る事を目指して、将来設計を含めた情報の提供を促進し、評価が向上するように努める。その意味で来年度からのカリキュラム改訂に期待したい。また基礎科目群、資格関連の基礎科目の授業関連の評価がやや低い傾向にあることから、指導体制の充実やカリキュラム改訂の効果を観察しつつ、適宜改善を続けたい。今後とも学生の学習意欲の向上につながる指導方法、環境整備などを学科内の教員個人に加え、科会等で情報交換を活発化することで行っていく。

1. 概評

ほとんどの項目で、ほとんどの授業が4以上の評価となっており、全体的に高い評価となっていると思われる。2科目のみが、2.5～3という評価をえているのは、ある特定の2科目のみである。1～2.5の評価となっている授業はなくおおむね高い数値といえると思われる。

文化創造学科では、学生とのインタラクティブな授業、また学生の自主的な学習を促す工夫を学科で話し合い、実践してきた。また公開授業を通じて、さらに学生が積極的に授業に参加するにはどうしたらよいか、ということを考える場も設けてきた。

また、様々なトラブルを抱えている学生の情報を、学科の教員全体で共有することで、学生全体に利益を与えられるような授業運営を心掛けた。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	3	22	44	[学生] 多くの科目が選択科目なこともあり、よくシラバスを確認して授業を履修している。また、真面目に出席し、授業外での学習も積極的に行っているように思われる。
2	4.1	0	0	0	3	16	50	
3	4.2	0	0	0	1	14	54	
4	4.0	0	0	0	4	22	43	
5	4.1	0	0	1	2	19	47	[授業[内容]] ある2科目を除き、ほとんどの授業がよく理解されている、という評価を得ている。
6	4.1	0	0	2	4	13	50	
7	4.1	0	0	2	2	16	49	[授業[教え方等]] これらについてもほとんどの授業が教え方について高い評価を得ている。毎年の授業の積み重ねから得た経験を踏まえて、授業が改善されていることが見て取れる。
8	4.2	0	0	2	2	8	57	
9	4.1	0	0	2	4	14	49	
10	4.1	0	0	1	3	18	47	
11	4.2	0	0	0	5	12	52	[環境・設備等] 教室環境についても、履修者にあわせて教室をできるかぎり変更したり、また、事前に履修者が多いことが予想される科目の曜講を変更したりすることで、よりよい環境づくりに努めてきた。また、参考図書についても、学内に図書を置くなど、充実させてきたことで高い評価となったと考えられる。
12	3.9	0	0	1	7	27	34	

3. 今後の方針

今年度で短大の授業はすべて閉講となるため、割愛させていただきます。

1. 概評

学科平均は、本年度の前期の評価と大きな変化はなく、全般的には評価はほぼ横這いである。一般教養科目の多様性ゆえ、評価は決して高いとは言えず、ばらつきもあると考えられる。履修の見取り図とも言える「知の羅針盤」を改革し、学生にわかりやすく、活用しやすい形を検討したい。開講年次にも検討を加え、バランスよく履修できるような工夫を加え、基礎科目から段階的に履修し、学習意欲の向上を目指した科目構成を検討していく。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	7	68	45	[学生] この問いグループの平均は、出席状況の評価が12項目中の最高値である。本年度前期に続き、学生は良好な出席を維持している。 しかし、授業に積極的に取り組む評価が0.1下がっているので、学習に積極的に取り組む姿勢が望まれる。 一般教養科目は専門科目と違い、学生の取り組み方もいろいろ違っているので、履修の見取り図として作成した「知の羅針盤」に、今後はシラバスに内容の難易度を示すなどの工夫を加え、基礎科目から段階的な履修計画ができるようにこの「知の羅針盤」とシラバスの連携をはかり、学習意欲の向上と学力の充実を強化する。
2	4.0	0	0	1	2	54	63	
3	4.3	0	0	0	0	7	113	
4	3.9	0	0	0	12	49	59	
5	4.1	0	0	1	0	40	79	[授業[内容]] 問06の授業の内容が理解できましたかの平均が3.9であった。これまでこの問いグループの2項目は平均4という数値を維持していたので、概ね良好であるが、わかりやすい授業の工夫の検討が必要と思われる。
6	4.0	0	0	1	8	43	68	
7	4.1	0	0	2	9	29	80	[授業[教え方等]] この問いグループは、今回どの項目も、前回、全学科とほとんど同じ評価であった。項目9を除いて4という数値を維持しており、また平均値の数値分布(1 ≤ ~ 4 ≤)を見ても、2.5 ≤ ~ <3 である項目は、ごく少数となっており、概ね良好と言ってよいと考える。全体平均と比較すると0.1下がっている。 学生に理解しやすい教授方法など更なる講義内容、講義方法の充実を図っていきたい。
8	4.2	0	0	0	6	32	82	
9	4.0	0	0	1	10	46	63	
10	4.1	0	0	0	6	42	72	
11	4.1	0	0	0	9	33	78	[環境・設備等] 学習環境を問う項目11は、昨年より0.1低いポイントであった。一般教養科目は、総じて受講生数が多いが、新校舎の教室棟を有効に利用したいと考えている。
12	3.8	0	0	0	7	79	33	

3. 今後の方針

「評価と対策」にも記したように、一般教養科目の新分類である知の見取り図である「知の羅針盤」を、履修計画の際に大いに利用できるように、検討を加え、改革していく予定である。一般教養の履修方法がわかりやすい手引の作成も計画していきたいと考えている。

1. 概評

全体の評価（全項目の平均値）は、4.025で概ね良好と言える。但し、評価の分布（ $1 \leq < 2$ ～ $4 \leq$ ）について前期と比較すると、例年同様の傾向ではあるが、 $4 \leq$ に占める数値はどの項目についても、大なり小なり減少している。

アンケートの度に常に評価が相対的に低い、項目1「シラバスの確認」と項目12「参考図書の充実」に関しては、前者が横ばい、後者が0.1アップである。シラバスの充実及び参考図書の充実に関しては、目下鋭意充実を図っているところである。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	$1 \leq < 2$	$2 \leq < 2.5$	$2.5 \leq < 3$	$3 \leq < 3.5$	$3.5 \leq < 4$	$4 \leq$	評価と対策
1	3.7	0	1	11	30	83	62	[学生] 評価の数値は、項目3が0.1ポイント下がった以外は、すべて前回と同じ。 項目1（シラバスの確認）の低い評価に対する対策は、実際に予習・復習に活用できるシラバスを作成することに尽きる。このことは、外国語科目の場合、「言うは易く行うは難し」であるが、引き続き検討していきたい。 項目2～4の評価の分布については、依然としてどの項目も$4 \leq$に圧倒的に偏っている（187件中128～164件）。学生は自身の授業の取り組みを高く評価しているが、教員の立場からすると、客観的な評価とは見做し難いように思う。
2	4.1	0	0	1	4	48	134	
3	4.3	0	0	0	2	21	164	
4	4.1	0	0	1	8	50	128	
5	4.0	0	0	0	12	68	107	[授業[内容]] この2つの項目の過去9回の数値は、3.8と4.0の間を変動しており、横ばいである。シラバス通りに授業がなされていたかを問う項目5の数値が高いのは、語学という科目の性格上当然であろう。項目6に関しては、項目2～4同様、学生の自己評価と実際の学力との間には乖離があるように思う。
6	3.9	0	0	0	16	73	98	
7	4.1	0	0	1	18	48	120	[授業[教え方等]] 7～10の項目についても、項目8（「話はよく聞き取れましたか」）が0.1数値が下がり、項目9（「板書等は効果的でしたか」）が0.1数値が上がったものの、ほぼ変化は見られない。すべての項目の数値が4乃至4.1であり、申し分ない値であるが、引き続き授業内容の充実を心掛けていきたい。
8	4.1	0	0	1	11	43	132	
9	4.0	0	0	1	24	53	109	
10	4.0	0	0	0	14	59	114	
11	4.2	0	0	2	1	31	153	[環境・設備等] 学習環境を問う項目11は、ここ数年4.2であるが、可能な限りひとクラス30名（会話クラス20名）以下に設定している点が評価されているか。更に少人数を心掛けたい。 参考図書の充実についての評価（項目12）は、項目1に次いで低い。各言語の背景となっている政治、社会、文化等に関する図書、DVD等の充実を引き続き図ってきたい。
12	3.8	0	0	2	25	98	62	

3. 今後の方針

- * 4年の在学期間にわたって持続的に外国語の学習が可能となるように、教養科目の10単位ほどを外国語の単位に振り分けること(2年目以降の外国語科目の教養科目化(2単位化))が可能か否かを現在検討中である。
- * 少人数クラス(1年対象クラス30名以内、2年生以上対象クラス20名以内)の方針を今後とも堅持していく。
- * 従来見られた学力の低い学生と2年次対象の内容別科目とのミスマッチを減らす意図で、来年度から1年次英語(U-A)の再履修クラスを設けるが、この科目の履修状況や履修結果に注目していきたい。

1. 概評

前期でも指摘したが、教職科目の殆ど全ては教員免許状取得のための必修科目であり、授業内容への関心や興味が初めから高いことは期待できない。しかし、教職（教員免許状取得）を目指す学生であれば、一定の目的意識は持って（潜在的にであって）持っているはずであって、その意識を顕在化し、教育や教師のあり方を考えさせる授業を行うことが求められている。

アンケートの結果はNo1～10までは4.4以上である。前期や昨年度に比べて若干高くなっている。これは各科目担当教員の努力と工夫の成果であると考えられる。

ただ個々の科目を見れば、評価にばらつきもあり、今後は学生の興味・関心を高める授業や学生参加型の授業のあり方を追求し、そしてすぐれた取り組みを共有できるようにする。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.4	0	0	0	0	0	29	〔学生〕 No1（シラバスの確認）が4.4であり、これまでで最も高くなった。シラバスを見て授業に臨むということがかなり定着してきた。シラバスは単に「授業予定表」ではなく、授業で何を学ぶのかを示す一覧であり、授業開始時に限らず適宜参照する必要がある。 その他設問項目も4.4以上であり、学生の授業への取り組みは概ね良好であると考えられる。ただNo4（授業外での学習）はやや低い傾向にある。事前課題や事後のレポートなど、適切な課外学習ができる工夫を一層行うことが必要である。
2	4.5	0	0	0	0	0	29	
3	4.6	0	0	0	0	0	29	
4	4.4	0	0	0	0	2	27	
5	4.4	0	0	0	0	0	29	〔授業〔内容〕〕 授業内容についても、概ね良好である。シラバスに沿った授業が必要であるといっても、「シラバス通り」にこなせばよいということではない。学生の実情に即した対応が求められることもある。その場合、授業内容についての説明を充分に行うことが必要である。
6	4.5	0	0	0	0	1	28	
7	4.5	0	0	0	1	2	26	〔授業〔教え方等〕〕 この領域は「説明の明快さ」「話し方」「メディア活用」「資料・教材」という、授業の技術的側面に関わる。平均は4.4、4.5であり、概ね良好と言えるが、4未満がやや多い。 科目の性格上、講義形式の座学が中心となるが、「説明の仕方」「話し方」自体が学生に学ばせたい内容でもあるので、その見本となる授業を行うことが必要である。 「メディア活用」「資料・教材」についても同様である。同時に新しいメディア（教材提示方法）が導入されている現在、将来の教師として、それらを必要に応じて有効に活用できる力を身につけるという点からも、工夫していく。 さらに可能な限り、学生主体の授業の試みを行っていく。
8	4.5	0	0	0	1	1	27	
9	4.4	0	0	0	1	1	26	
10	4.4	0	0	0	0	3	26	
11	4.4	0	0	0	0	3	26	〔環境・設備等〕 従来と比べ、空調設備が改善され、教室環境にも大きな問題はなかった。図書館の充実については、資料活用の方法や情報収集について、丁寧な指導が必要だと考える。図書館の蔵書の充実だけでは対応できないのではないかと。
12	4.2	0	0	0	1	4	24	

3. 今後の方針

概評でも見たように、基本的には概ね良好な状態であると考えてるので、今後もこれを維持していくことに努める。

授業の内容や方法については、個々の担当者での改善への工夫を基本としながら、教職科目全体としての底上げを図っていく。非常勤担当の科目が多いので、専任教員を中心として、授業改善の方策を提案し、共有化をめざす。

授業改善の一環として、授業外での学習支援活動、とりわけ教育実習や教員採用への対応をより充実させ、教職課程の目的である「優れた教師の養成」を進めていく。